

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



目的のある展望学習

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」 「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「SHIP SHAPE」とは？

【所長 新庄 正幸】



「SHIP SHAPE」(シップシェイプ)という言場があります。船、とりわけ帆船らしくきちんと整っている状態をシップシェイプと言います。帆船には、その美観を表現するために真ちゅう製の船具が多用されています。例えば、ドアのノブ、階段の手すり、いかり綱やロープを巻きあげる機械等々の多くに、真ちゅうが使われています。

常に研磨剤を使って、輝きが失われないようにピカピカに磨き上げれば、輝きが失われません。現代の日本の船舶

で、「日本丸」や「海王丸」ほど真ちゅうが使われている船はない、とされています。

その日本丸や海王丸は、将来の船長や機関長をめざしている学生たちを訓練するための練習船です。アメリカやハワイをめざしての航行中に、風の力だけで走る時があります。そうです。総帆をあげてです。帆を広げるためには、多くのロープをカー杯引いたり、伸ばしたり一つ一つの作業を確実に、そして速やかに進めていかなければなりません。その時、自分が怪我をしないようにすることはもちろんですが、自分の不適切な行動で仲間に怪我をさせないように注意することも必要になってきます。

みんなが力を合わせてロープを引き、帆を広げる作業が終わります。この総帆あげは、心一つにして、オールを漕いで前に進むカッター活動に似ています。

フローティングスクールでは、シップシェイプの精神を受け継いでいるのが、3つのあの安全やあとしまつです。また、「湖の子掃除」の合言葉は、「来た時よりも美しく！」であり、「床を磨くことは、心磨き！」でもあります。「うみのこ」乗船時には、これらのシップシェイプや協力の精神・たくましさを身につける貴重な機会としていただければと考えています。

### かきくけコーナー

51回航海は、「子どもたちが目的意識や視点をもって臨む展望学習の在り方を考える」がテーマの航海でした。(右上写真)展望時間が来たので甲板に出て、目の前の島の景色を見ている活動になってしまうことが多くあります。今回の子供たちは、びわ湖にある4島の中で、調べたい島を決めて乗船してきました。例えば、「人が住んでいるってどれくらい大ききさだろう？」とか「白石と沖島の大ききさの差はどれくらいか？」という課題を解決するため「実際に行ってみてみたい。」という意欲が湧いていました。そして、島々の展望後に、気づいたことをワークシートに書いていました。

だから、学習のまとめの時には、「やっぱり！思った通りや。」「へえー初めて知った。」「思ったより〇〇」「意外に〇〇」のような思いを交流することができたのだと思います。